

鹿児島県林業信用保証

鹿児島県林業信用保証相談員

鹿児島県木材協同組合連合会

専務理事 堂込清文

本県は、約58万ヘクタールを超える豊富な森林資源を有し、面積では九州1位、全国12位となっています。

また、南九州地域は気候が極めて温暖なことから、スギなどの人工林資源の成長が早く、利用可能な林分が約9割を超えるなど、全国に先駆けて資源が成熟しており、これらの有効活用を図ることが大きな課題となっています。

一方、人口減少社会の到来に伴い、住宅着工戸数が減少することが見込まれており、今後、住宅以外の建築物への木材利用を進めていくことが極めて重要となっています。

こうした中、本県では、国産スギ材を使用した2×4部材を生産する加工施設や、新たな建築資材として注目されているCLT(直交集成板)の加工施設が整備されるなど、これまでにない活発な動きが展開されています。



1.株式会社さつまファインウッド

さつまファインウッドは、本県中央部の霧島市に位置し、全国に先駆けて、国産スギ材の2×4部材への加工に取り組み、平成28年度から本格的に生産しています。

当施設では、県内外から入荷されたラミナ(原板)を、施設内の土場で天然乾燥し、さらに人工乾燥したものを2×4部材に加工しています。平成30年度の製品出荷量は約3万㎡、製品は、規格、寸法、曲げ強度について1本ずつグレーディングされ、品質の確かな製品と



さつまファインウッド
国産2×4部材によるトラス工法で建設した木材倉庫(鹿児島市郡山町)

なっています。

現在、製品は県外の手豪メーカーや建材店、工務店などに出荷されており、近年の国産材志向ともあいまって、これまで外材が中心だった2×4部材が国産に替わりつつあります。

2.山佐木材株式会社

山佐木材は、本県東部の大隅半島の肝付町に位置し、一般製材品をはじめ、中小断面や大断面の集成材の生産を行っています。特に大断面集成材については、これまでに全国各地で数多くの木造建築物等に活用されるなど、全国的にも有数の集成材生産施設となっています。

こうした中、当社では、数年前から国産スギ材を

使用したCLTの生産に取り組んでおり、沖縄県の下地島空港のターミナルビルや県内のアパートなどの建設に活用されています。

今後、CLTによる大型の木造施設の建設が進むものと考えられ、その普及、利用拡大に期待が寄せられています。



山佐木材 国産CLTを活用した4階建てアパート(鹿児島県始良市)

最後に、鹿児島県における林業信用保証制度を活用した最近の事例を紹介します。県内のある製材事業者が製造過程において発生する背板等の処理を目的として、木材破砕機を導入するため、信用基金の保証を利用して金融機関から資金を調達しています。これにより、従来、産廃処分コスト

が必要だった木くずが、木材チップとして販売できるようになり、収益性の向上が見込まれています。

今後も、信用基金の保証制度等の活用等を通じて、県内の林業・木材産業の活性化が図られることを期待しています。